

○ 本校の概要

◇生徒数449名、学級数13学級、教員数25名
 ◇特色ある教育活動としては、次の4点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「子どもの『生きる力』」を育むプログラム～大田区における特色のある教育の推進～事業実施校として、「いじめ防止プログラム」を実施し、生徒の自己肯定感の高揚を図っている。③町会及び関係機関と連携した防災・避難訓練(学校防災活動拠点訓練)の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を進めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価	コメント				
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	2	①外国語の観点別評価で「コミュニケーション」への関心・意欲・態度」がAの生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満	3	◇外国語教育指導員の派遣時間が増え、英語の授業での活用は進んでいる。英語カフェなど休み時間の活動場面の充実が課題である。 ◇農業体験、職場体験、ものづくり教育、学習フォーラムなどが中止となり、体験活動の充実は図れなかった。本校の特色としても、体験活動の充実には工夫して取り組んでいきたい。 ◇デジタル教科書の普及により、日常的にICTを活用する教員も増えてきた。来年度から生徒1人1台のタブレット配布に向けて、個別に研修を進めているところである。 ◇体力向上の取組は、保健体育科を中心に推進しているところではあるが、学校全体で取り組んでいくという意識は少ない。コロナ禍で運動不足になり、体育の授業中や部活動中のけがも多かったため、これまでに安全への配慮が重要となっている。	A	5	◇タブレットを活用した授業を行うことによる効果を期待いたします。 ◇小学校ではタブレットが配付されました。中学校でも来年度に配付されるのでしょうか。			
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	1	②「自分には、よいところがある。」という問いに「当てはまる」または「どちらか」というと、当てはまる」と答えた生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満			B	3				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			1					
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力を向上	児童・生徒一人ひとりの学力を高めて、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	1	①数学の観点別評価で「数学の技能」がAの生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満	2	◇1学期に生徒との面談をもつことができず、全員面談の機会が減り、学習カルテを基にした学習面の指導が不十分になってしまった。 ◇休校期間が続き、授業で習熟のための時間の確保が難しくなり、ステップ学習に取り組ませることができなかった。ステップ学習の他にも、ドリルパーク、eboardなどのPCやタブレットを取り組める教材があるので、生徒一人一人に合ったものを活用したい。 ◇補習参加への呼びかけは全員の教員がやっているが、参加生徒数の伸びは多くない状況である。補習教室の教材の工夫・改善を図りたい。 ◇授業作成プランの作成時期が遅くなってしまったが、各教員が授業改善に生かしている。	A	5	◇コロナ禍で制限されている中で、できる限りやっていたらいいと思います。			
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	②保護者による学校生活アンケートで「学校は、子どもの能力を適切に評価し、学習意欲を高めている」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満			B	3	◇行事がなかった分、勉強がはかどったという他校の先生の話があった。勉強がはかどった分、それ以外の活動が不足し、人間性を育むのが難しいか。勉強と行事とバランスよくできたらよい。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4%	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			3					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。			3					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	①生徒による学校生活アンケートで「学校の規則や規律を守って生活している」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇生徒会によるプランケットルールの検討などの取組により、生徒のルールやきまりを守る意識が高まっている。小学校と共通の生活スタンダードの周知もしっかり行っている。 ◇各学年の道徳教育推進担当者が中心となり、道徳の教材や課題を工夫し、指導の充実を図っている。今年度の実施内容を年間指導計画別冊に書き込み、学校全体としての計画の見直し・改善も図っていききたい。 ◇学校生活調査、hyper-QUなどを各学級で有効に活用し、教育相談の充実を図っている。研修などを通して、さらなる有効活用を図っていききたい。 ◇いじめや問題行動・不登校などの課題については、対応の難しいケースも多いが、必要な会議を生活指導部会の中に位置づけ確実に実施している。月に1回、SSWにも出席してもらうことになり、取組の充実が図れている。	A	6	◇夜で歩く子供もあまり見なくなった。悪い噂もきかない。この状況(コロナ禍)が開けた後に子どもたちがはげなければいい。			
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	②保護者による学校生活アンケートで「子どもが学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満			B	3				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			3					
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	①生徒による学校生活アンケートで「部活動」に積極的に参加している」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	4	◇「早寝・早起き・朝ごはん」の取組は感染症予防のための取組と併せて実施した。3年生の質問紙調査の結果では、朝食を毎日食べている生徒の割合が83%であり、引き続き取組に力を入れる必要がある。 ◇今年度は調理実習は実施できていないが、家庭科の授業で食育に力を入れて取り組んでおり、生徒の意識も高まっている。また、栄養士が給食日より掲示版を工夫し、給食の食育も推進している。 ◇秋に体育祭を実施することができた。活動の制限などもあるが、部活動の取組も多くの部で充実させてきている。 ◇感染症予防は養護教諭を中心に学校全体でしっかり取り組んでいる。	A	8	◇体育祭の日程変更による開催など、臨機応変に対応されていて良いと思います。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	②保護者による学校生活アンケートで「子どもは、健康や安全に気を配って生活できている」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満			B	1	◇体育祭で、「お弁当を作ったのに観戦できず残念だった」という声を聞いた。 ◇全日本バトン選手権に参加する生徒がいる。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:学期に2～3回行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。			4					
		感染症予防、生活習慣病防止など健康の保持、増進に関わる教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1	①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	4	◇校外での研修の多くが中止となったことや、授業公開を実施することができなかったことで、授業改善の研修を充実させることは難しかったが、各教科で校内研修やOJTを通して、新学習指導要領の内容や評価の研修、ICT活用の研修に取り組んできた。「指導と評価の一体化」ICTを活用した指導についてはさらに研修に力を入れていきたい。 ◇サポートルーム1年目。専門員と巡回指導教員の連携で効果的な取組が定着してきた。サポートルームと学年教員との連携を工夫していききたい。 ◇施設や設備の破損については、速やかに対応し修理・修繕を行ってきた。しかし、保護者アンケートで校舎の老朽化を心配する声もあったので、日々の点検を確実に実施していきたい。	A	6	◇文字を書くことが難しい子供が板書を写すのにタブレットを活用できるとよい。			
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	②保護者による学校生活アンケートで「施設・設備の整備・修繕は適切に実施されている」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満			B	3				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			3					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか?」の問いに「よくある」または「どちらか」とある」と回答した生徒の割合 4:60%以上 3:40%以上60%未満 2:20%以上40%未満 1:20%未満	3	◇保護者や地域へ授業や行事の公開をすることが難しくなり、HPやメール、学校便り・学年だよりで学校の様子をお知らせできるように努めてきた。 ◇学校支援地域本部については、コーディネーターを1名増やし、活動の推進のための準備を始めている。 ◇地域の行事もなくなり、生徒のボランティア活動の機会を作ることができなかったが、講話による防災活動拠点訓練、地域の事業所の方による職業講話、老人ホームや福祉施設への和太鼓・吹奏楽演奏DVDの提供など、多少なりとも地域とつながりをもつ取組を実施することができた。	A	4	◇コロナ禍の中で学校にはなかなか行けず、コメントがづらいです。この状況で、先生方は精一杯の努力をしてくれていると思います。子どもたちのためにこれからも頑張ってください。 ◇今年度、地域の行事が全くできなかった。この状態が楽でよいというふうになるのが心配である。これからは、地域との連携が大切になる。 ◇コロナ禍で、生徒の実態について生の情報が例年より少なかった。 ◇密を避けた中で町の町会と学校との活動がもっとできればよい。			
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	②保護者による学校生活アンケートで「学校の様子を知ることができている」という問いに「そう思う」または「どちらか」というと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満			B	4				
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			1					
		特別出張所、町会と連携し、地域の特性を生かした安全・防災教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			1					